

## ご挨拶

ドブロ ドシュリ（これ、クロアチア語で、ようこそ、という意味です）。

8月14日、河野外務大臣が、ここザグレブを訪れ、グルリッチ＝ラドマン外務大臣と会談しました。河野大臣一行は、お隣の国スロベニアの国境の町ペトリナで車列を乗り換え、陸路でそこから2時間もかからず到着しました。グルリッチ＝ラドマン大臣は、それまで駐ドイツ大使、駐ハンガリー大使などを歴任された外交官で、就任して一ヶ月も経っていませんでした。

日本とクロアチアの外相会談は8回目ですが、日本の外務大臣がクロアチアを訪れたのは、24年ぶりのことです。前回のクロアチアでの外相会談は、1995年4月30日日曜日午前、河野太郎大臣のお父様、河野洋平外務大臣と、当時のクロアチアのグラニッチ外務大臣との間で、同じ外務省の建物で行われました。今回の外相会談は、冒頭テタテ（大臣同士一対一）、引き続いて双方の大使や担当局長などが同席してのワーキング・ディナーの形式でした。先方には当時も同席していた人たちもいて、24年前は、今はブルーの椅子のカバーが黄色であった、などとささやいていました。当時はクロアチアにとって、旧ユーゴスラビアからの独立をめぐる経験した戦争における転換点となった「稲妻」作戦の文字どおり前夜だったのですが。

戦後24年のクロアチアは、2013年に28番目のEU加盟国になっており、安定した民主国家として発展を続けています。日本とは1993年に外交関係を樹立し、一貫して友好関係を育んで来ています。今年の2月1日には日本とEUとの経済連携協定（EPA）が発効しました。9月5日には二重課税の除去等を規定した租税協定が発効する予定です。両大臣は、2国間の貿易や投資を促進する環境が整いつつあることを確認し、これらを一層推進させて行くことで合意しました。また、近隣の西バルカンの国々が同じように民主主義国として安定的に発展し、EUへの加盟も果たせるよう、ともに支援していくことでも一致しました。

翌週の8月20日から22日には、衆議院予算委員会から、田中和徳議員を団長とする超党派の欧州政治経済事情等調査議員団が来訪されました。クロアチア議会のライネル副議長を議会議事堂に訪ねた他、矢崎ヨーロッパ・ザグレブ支店といった、日本の投資の現場も視察されました。また、ユネスコ世界遺産でもあるドブロブニク、川崎市と姉妹都市のリエカという地方都市

を訪問され、それぞれフランコビッチ市長、オベルスネル市長と会われて、観光立国としてのクロアチアの経験などを踏まえ、意見交換が行われました。クロアチアは人口4百10万の国ですが、年間千6百万人の観光客を迎えています。その数が一番多いと言われる夏も、こうして終わろうとしています。着任してからの三ヶ月を、多くの方のおかげさまで、盛りだくさんに終えることが出来ました。

いよいよ来年前半のEU議長国に向けて走り出しているクロアチア。外相会談の成果を携えて、ともに走って行きたいと思っています。

2019年8月31日  
駐クロアチア特命全権大使  
嘉治 美佐子